

## スキットづくりを通じた表現力の育成

英語 第2学年

輪島市立南志見中学校

### 1 事例の概要

本校では『確かな学力の向上につなげる「活用力」の育成』を研究主題として研究を進めている。活用力（思考・判断・表現力）を伸ばすための授業研究を推進する中で、個々の生徒に習得した知識や技能を活用する楽しさや有用性を実感させ、その積み重ねを通じて確かな学力の育成をめざしたいと考えている。まずは活用力のとらえについて全教員で共通理解を図り、活用力が身に付いた生徒のイメージを明確にし、年間指導計画の見直しや単元計画を再構成し、各教科の特性を考えながら「考える場面」や「表現する場面」を可能な限り授業に取り入れる努力をしている。

英語科においては活用力が身に付いた生徒のイメージを「初歩的な英語を読んだり、聞いたりしてその概要をつかみ、それについて自分の意見や感想を英語で表現することができる生徒」とした。そのイメージに近づくためには、「テーマが与えられた場面で、自分の意見や感想を英語で話したり書いたりできる」必要がある。そのためのステップを3段階にわけて考えてみた。

ステップ1・・・自分や家族・友達などについて、事実を正確に表現できる。

ステップ2・・・自分のことについて自分の思いや考えを付け加えて表現できる。

ステップ3・・・人の意見を聞いたり読んだりして、それについて自分の意見を話したり書いたりできる。

本校の2年生は与えられた情報を正しく読み取ることはおおむねできるが、これまで読み取った情報をまとめて発表する機会が少なかったため、そのことに関して少し抵抗を感じている生徒がいる。今後はテーマを与えて自分の考えをまとめ、発表する活動を増やしていきたい。その活動形態もペア→グループ→全体と変化を持たせてできるだけ多く練習させ、表現力を身につけることを中心にして「活用力」を高めたいと考えている。

#### A-1 学校研究

#### A-2 活用力が身に付いた生徒のイメージ（英語）

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

①接続詞 *that*、*when* を用いて簡単な対話をしようとする。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

②新聞記事や投書の意見を読んで、簡単に自分の意見を述べるができる。

(表現の能力)

③新聞記事や投書を読んで、その内容を理解することができる。

(理解の能力)

④ *if* 節、*that* 節、*when* 節、*because* 節を用いた文の形・意味・用法を理解している。

(言語や文化についての知識・理解)

#### (2) 指導上の工夫点(視点)

活用力(特に表現力に重点をおいて)を意識した授業(本時)

○与えられたテーマについて自分の意見をまとめ、友達とスキットづくりをする活動を通して、習ったことを活用させる。また、発表の段階では3人で積極的に関わり合って考え、スキットの流れや内容を工夫するように指導する。作ったスキットについては、添削して生徒に返し、表現ノートにまとめさせる。

(Unit 5全体を通して)

○投書の意見を読んでその内容を理解し、それを参考に簡単に自分の意見をメッセージ性のある3文以上の英文で述べる。

○Speaking Plusの本文の一部を変えたり、付け加えたりして口頭練習をする。

### 3 指導の実際

(1) 単元名 Unit 5 A Park or a Parking Area ?

(2) ねらい if、that、when、because を用いて自分の意見を2文以上の英文で表す。

過程	配時	学習内容	評価(◆)と支援(◇)と留意点(※)
展開	30分	2. 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">             テーマを読んで友達とスキット作りをしよう。           </div> 3. テーマを読んでみる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">             We may have a cell phone now or should wait until we finish school.           </div> 4. 使えそうな表現を練習する。 5. ペアで対話文を作ってみる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">             A ①私は～だと思う。              ②もし～なら、～だから。              ③あなたはどう思う？              B ①私もそう思う。/ 思わない。              ②なぜなら～だから。           </div> ワークシートに記入する。 6. 暗唱と発表	※意味を確認する。 ※スキットづくりのヒントとなる語句を口頭練習させる。 ◆ if、that、when、because を用いて自分の意見を2文以上の英文で表すことができる。(ワークシート) ◇【評価規準に到達していない生徒】わからない単語や表現について教える。 ◇【評価規準に到達している生徒】登場人物が3人のスキットづくりに挑戦させる。

C-1 指導案

C-2 指導と評価の計画

C-3 指導案(本時)

C-4 ワークシート

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

投書の意見を読んで自分の意見を3文以上の英文で表すという活動については、テーマが自分たちとはかけ離れていたため、内容がうわべだけのものとなってしまったが、携帯電話という身近なテーマを与えたところ、生徒たちは熱心にスキットづくりに取り組むことができた。やはり興味・関心をひくテーマが必要である。

またスキットづくりで最も時間がかかる文章づくりを家庭学習にしたことや、あらかじめ生徒がつまづきそうな表現や単語をフラッシュカード等を使ってウォーミングアップでスピーディーに練習させたことで、書く活動・発表する活動に十分な時間が生まれ、ゆとりのある授業展開となった。その結果、個々の生徒が見通しを持って授業に取り組むことができ、よりよい表現をめざそうとする意欲や積極性が育ってきた。発表の段階では全員が自分の意見をしっかり述べることができた。

#### (2) 課題

テーマをもとに、自分の意見を持ち大きな声で発表することは、少しずつできるようになってきたが、さらによい発表にむけての工夫(アイコンタクト・表情・ジェスチャー)はまだ十分とは言えない。また、相手の話すことを問題意識を持って聞く習慣を身に付けさせ、コミュニケーションの内容を深めていく継続指導も必要である。そのためには、生徒が意欲的に表現したくなるような学習場面を、教師側がうまく仕組んでいかなければならない。当面は「表現する場面」の中心的な学習として2人のスキットづくりに慣れさせ、段階的に司会者をたてたグループ討議を取り入れ、3年次にはディベート形式の話し合いをさせたいと考えている。